

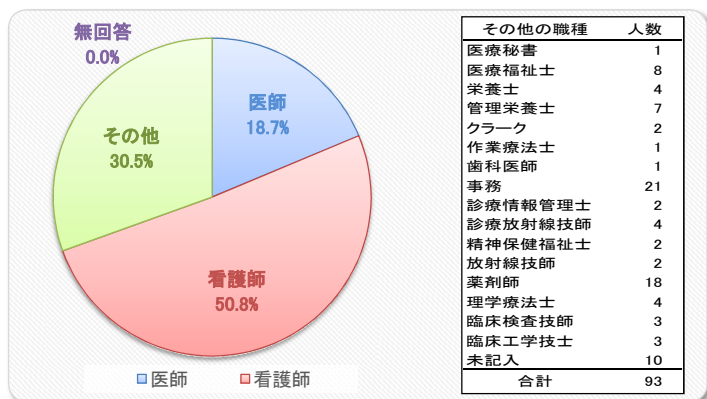
①拠点病院内 医療従事者向け

H27年度

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

2) 職種

18.7%が「医師」、50.8%が「看護師」、30.5%が「その他」となっている。



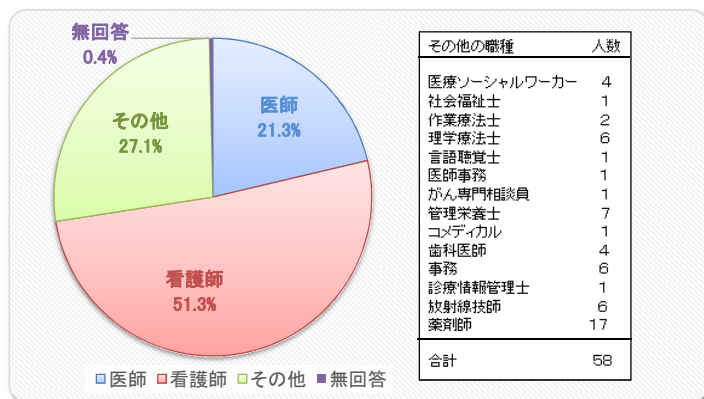
	サンプル数	医師	看護師	その他	無回答
対 象	305	18.7%	50.8%	30.5%	0.0%
がん診療連携拠点病院	305	57	155	93	0
合 計	305	57	155	93	0

H30年度

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

2) 職種

- ・看護師が51.3%でもっと多く、次に医師が21.3%となっている。
- ・前回と比較してその割合はあまり変わらない。



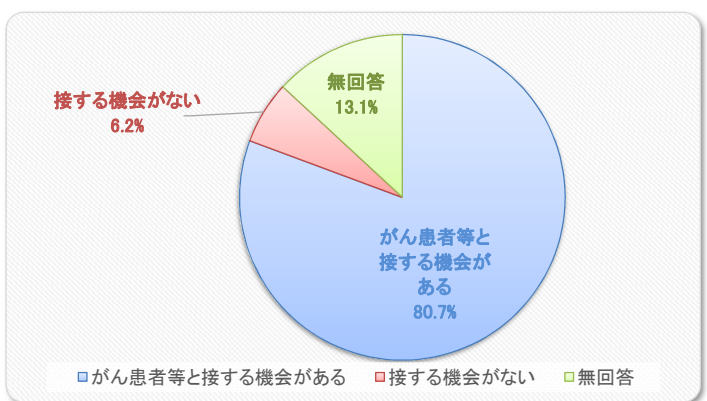
	サンプル数	医師	看護師	その他	無回答
対 象	277	21.3%	51.3%	27.1%	0.4%
がん診療連携拠点病院	277	59	142	75	1
合 計	277	59	142	75	1

H27年度

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

3) 業務内容

80.7%が「がん患者等と接する機会がある」、6.2%が「接する機会がない」



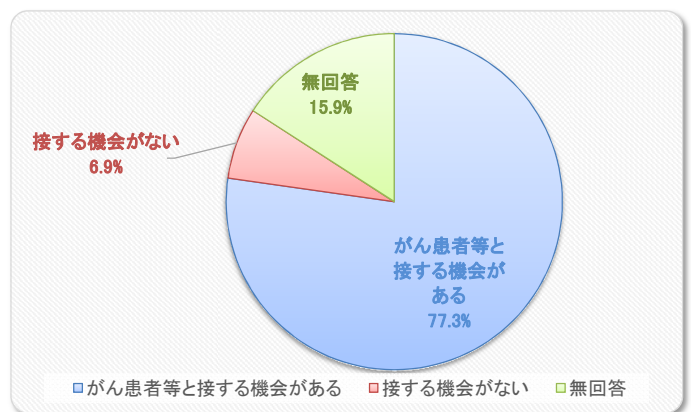
	サンプル数	がん患者等と接する機会がある	接する機会がない	無回答
対 象	305	80.7%	6.2%	13.1%
がん診療連携拠点病院	305	246	19	40
合 計	305	246	19	40

H30年度

Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。

3) 業務内容

・回答者の77.3%が「がん患者と接する機会がある」。



	サンプル数	がん患者等と接する機会がある	接する機会がない	無回答
対 象	277	77.3%	6.9%	15.9%
がん診療連携拠点病院	277	214	19	44
合 計	277	214	19	44

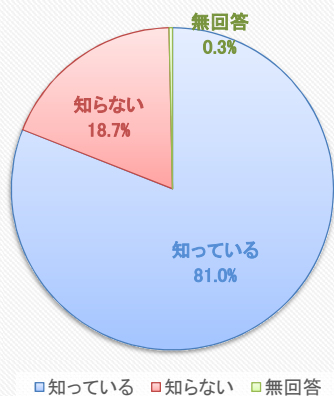
①拠点病院内 医療従事者向け

H27年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

1)がん相談支援センターを知っていますか

81.0%が「知っている」、18.7%が「知らない」となっている。



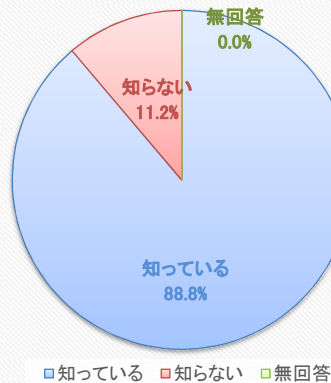
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対 象	305	81.0%	18.7%	0.3%
がん診療連携拠点病院	305	247	57	1
合 計	305	247	57	1

H30年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

1)がん相談支援センターを知っていますか

- ・がん相談支援センターを「知っている」が88.8%であり、「知らない」11.2%を大きく上回った。
- ・前回と比較すると「知っている」約7.8%増加している。



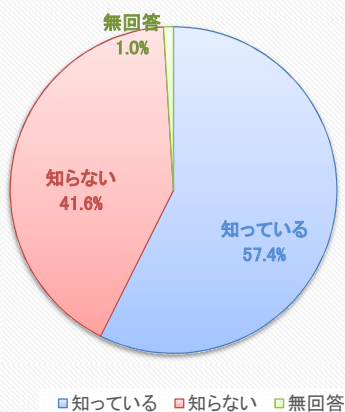
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対 象	277	88.8%	11.2%	0.0%
がん診療連携拠点病院	277	246	31	0
合 計	277	246	31	0

H27年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

2)がん相談支援センターの業務を知っていますか

57.4%が「知っている」、41.6%が「知らない」となっている。



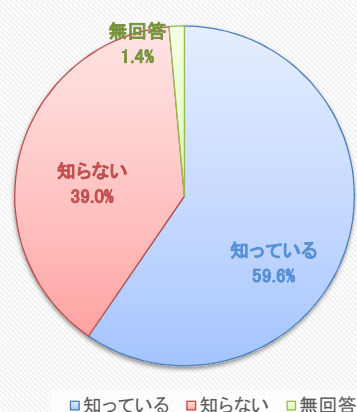
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対 象	305	57.4%	41.6%	1.0%
がん診療連携	305	175	127	3
合 計	305	175	127	3

H30年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

2)がん相談支援センターの業務を知っていますか

- ・がん相談支援センターの業務を「知っている」は59.6%であり、がん相談支援センターのことは知っているが、約3分の1は業務内容を知らない。
- ・前回と比較して業務内容を「知っている」の増加は約2%となっている。



	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対 象	277	59.6%	39.0%	1.4%
がん診療連携	277	165	108	4
合 計	277	165	108	4

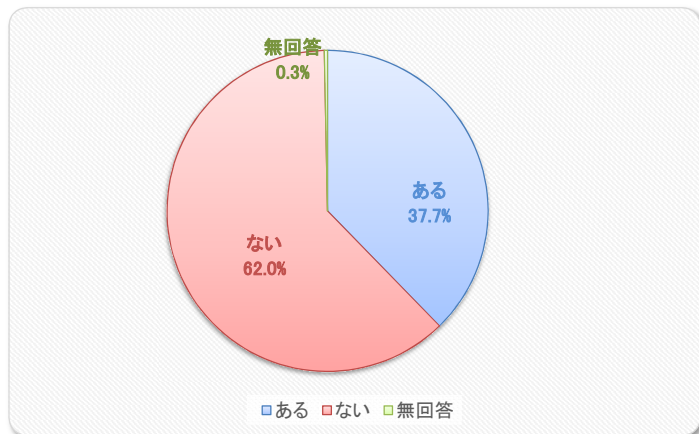
①拠点病院内 医療従事者向

H27年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

3)がん相談支援センターと連携して、患者対応を行ったことがありますか

37.7%が「ある」、62.0%が「ない」となっている。



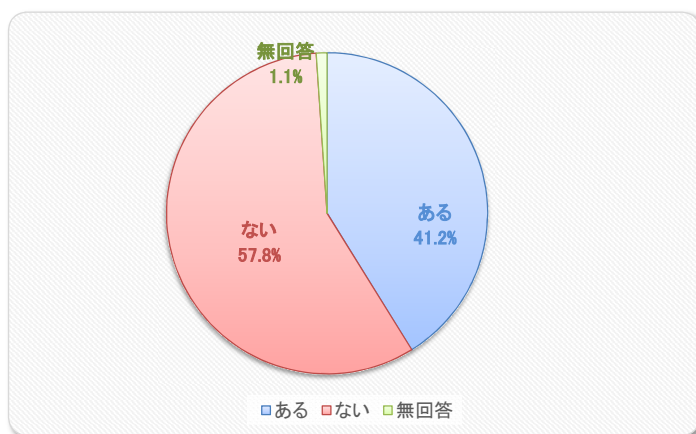
	サンプル数	ある	ない	無回答
対 象	305	37.7%	62.0%	0.3%
がん診療連携拠点病院	305	115	189	1
合 計	305	115	189	1

H30年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

3)がん相談支援センターと連携して、患者対応を行ったことがありますか

- ・がん相談支援センターと連携して、患者対応を行ったことが「ある」は41.2%であり、「ない」を下回っている。
- ・前回と比較すると「ある」は3.5%増加している。



	サンプル数	ある	ない	無回答
対 象	277	41.2%	57.8%	1.1%
がん診療連携拠点病院	277	114	160	3
合 計	277	114	160	3

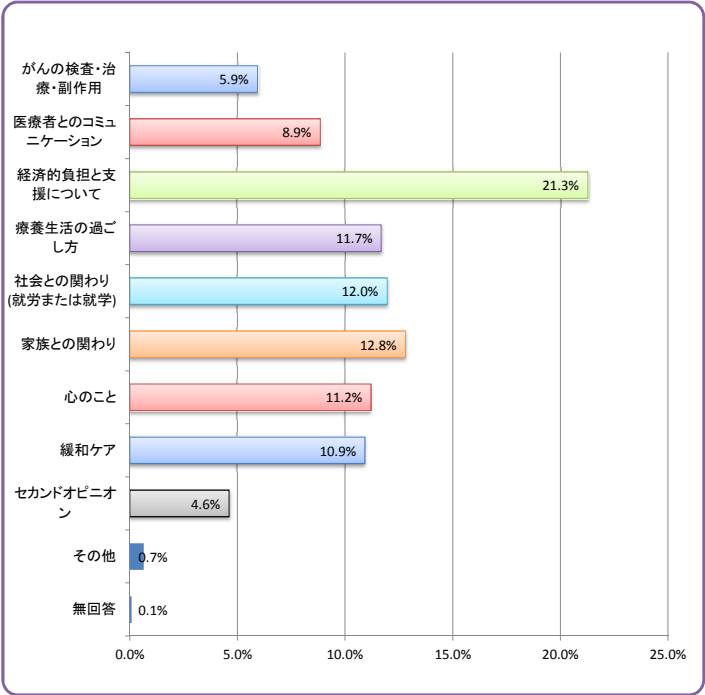
①拠点病院内 医療従事者向

H27年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

4) 以下の業務のうち、相談支援センターに力を入れてほしい項目にレをつけて下さい（複数回答）

21.3%が「経済的負担と支援について」、12.8%が「家族との関わり」、12.0%が「社会との関わり（就労または就学）」となっている。



	サンプル数	がんの検査・治療・副作用	医療者とのコミュニケーション	経済的負担と支援について	療養生活の過ごし方	社会との関わり（就労または就学）	家族との関わり	心のこと	緩和ケア	セカンドオピニオン	その他	無回答	項目合計
対象	305	5.9%	8.9%	21.3%	11.7%	12.0%	12.8%	11.2%	10.9%	4.6%	0.7%	0.1%	100.0%
がん診療連携拠点病院	305	63	94	226	124	127	136	119	116	49	7	1	1062
合計	305	63	94	226	124	127	136	119	116	49	7	1	1062

その他のご意見

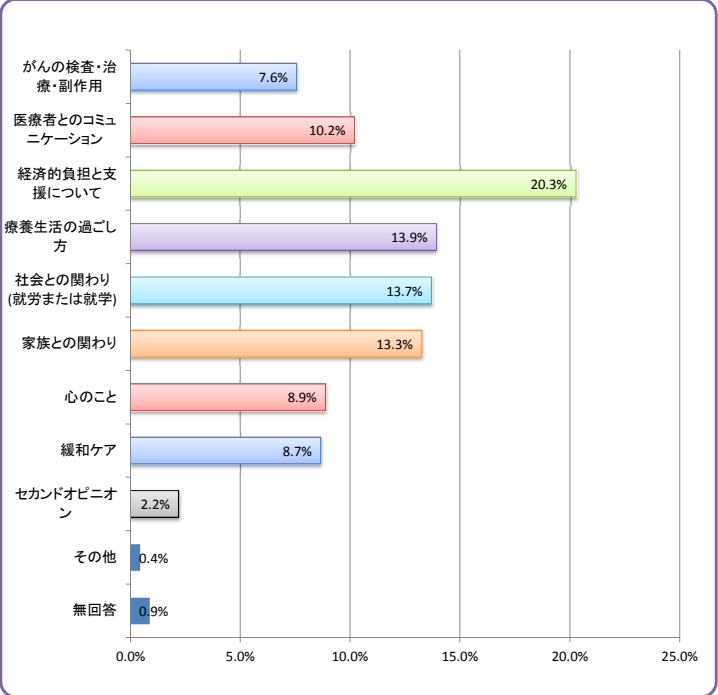
- 現状でのトータルサポートで十分だと感じている。
- 亡くなられた家族のケア

H30年度

Q2.「がん相談支援センター」についてお伺いします。

4) 以下の業務のうち、相談支援センターに力を入れてほしい項目にレをつけて下さい（複数回答）

・「経済的負担と支援について」が最も多く前回答の20.3%を占めている。ついで「療養生活の過ごし方」「社会との関わり」が上位意見となっている。
・前回と比較して「療養生活の過ごし方」が増加している。



	サンプル数	がんの検査・治療・副作用	医療者とのコミュニケーション	経済的負担と支援について	療養生活の過ごし方	社会との関わり（就労または就学）	家族との関わり	心のこと	緩和ケア	セカンドオピニオン	その他	無回答	項目合計
対象	277	7.6%	10.2%	20.3%	13.9%	13.7%	13.3%	8.9%	8.7%	2.2%	0.4%	0.9%	100.0%
がん診療連携拠点病院	277	69	93	185	127	125	121	81	79	20	4	8	912
合計	277	69	93	185	127	125	121	81	79	20	4	8	912

その他のご意見

- ACP
- 両立支援
- あまり人に相談しづらいようなことを聞いてほしい
- 化学療法をやめた時の治療方針への不安、対応
- 正しい情報へのアクセス
- 十分対応されていると思う

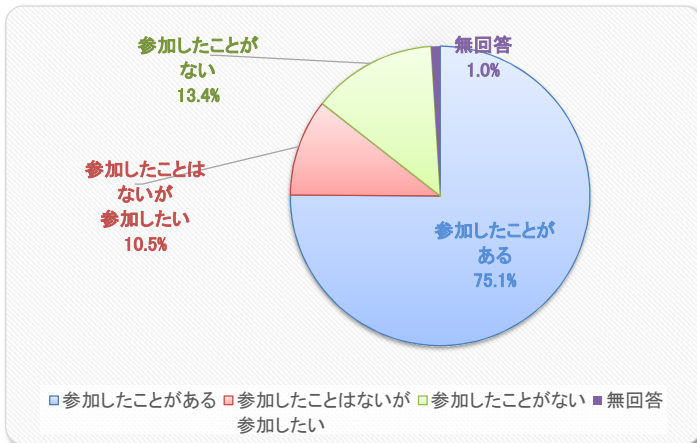
①拠点病院内 医療従事者向け

H27年度

Q3.「がんに関する研修会等」についてお伺いします。

1) 研修会・講演会等に参加したことがありますか

75.1%が「参加したことがある」、10.5%が「参加したことはないが参加したい」、13.4%が「参加したことがない」となっている。



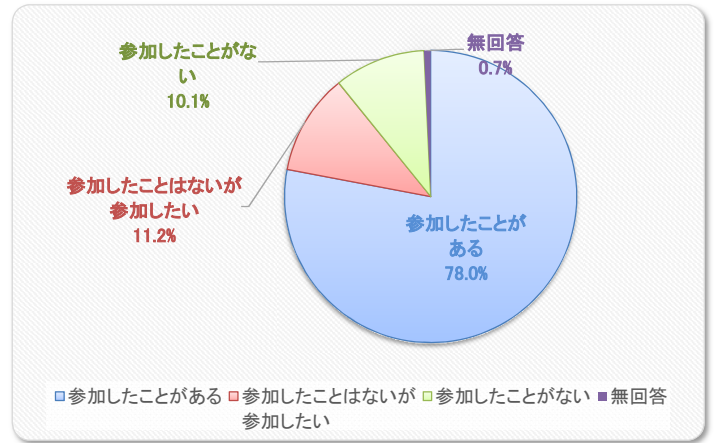
	サンプル数	参加したことがある	参加したことはないが参加したい	参加したことがない	無回答
対 象	305	75.1%	10.5%	13.4%	1.0%
がん診療連携拠点病院	305	229	32	41	3
合 計	305	229	32	41	3

H30年度

Q3.「がんに関する研修会等」についてお伺いします。

1) 研修会・講演会等に参加したことがありますか

- ・がんに関する研修会・講演会に「参加したことがある」のは78%と「参加したことはないが参加したい」も合わせた「参加したことがない」21.3%に対して高くなっている。
- ・前回と比較して「参加したことがある」は増えている。



	サンプル数	参加したことがある	参加したことはないが参加したい	参加したことがない	無回答
対 象	277	78.0%	11.2%	10.1%	0.7%
がん診療連携拠点病院	277	216	31	28	2
合 計	277	216	31	28	2

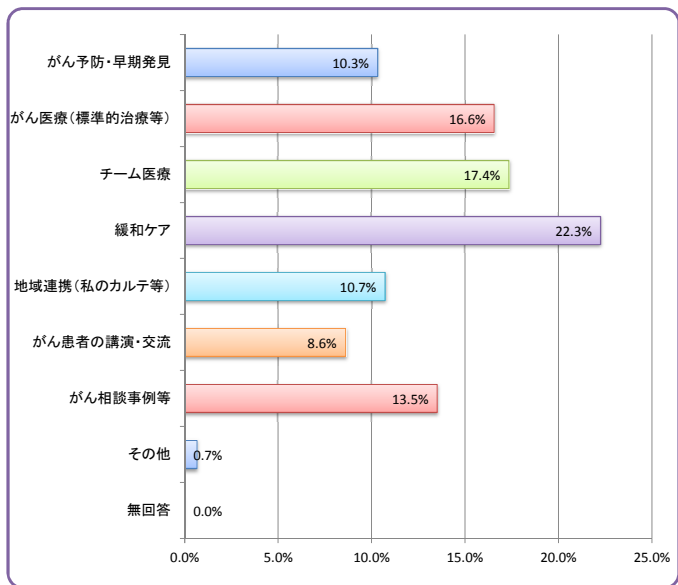
①拠点病院内 医療従事者向

H27年度

Q3.「がんに関する研修会等」についてお伺いします。

2)院内外におけるがんに関する研修等で参加したいと思うテーマはありますか
(複数回答)

22.3%が「緩和ケア」、17.4%が「チーム医療」、16.6%が「がん医療(標準的治療等)」となっている。

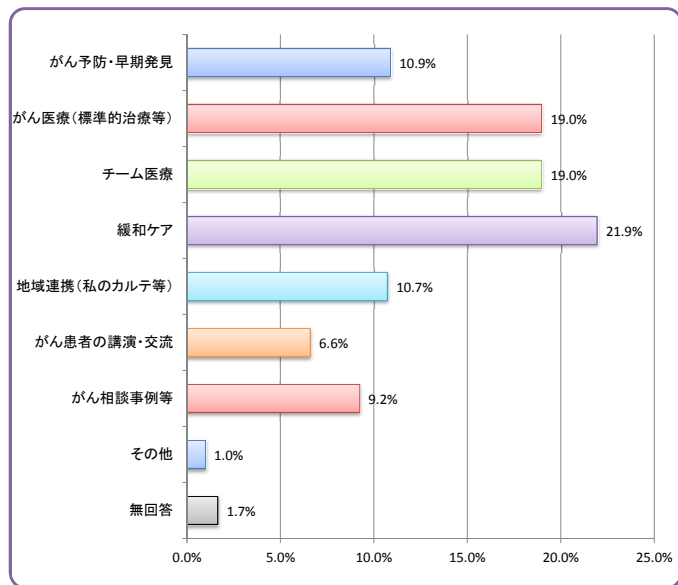


H30年度

Q3.「がんに関する研修会等」についてお伺いします。

2)院内外におけるがんに関する研修等で参加したいと思うテーマはありますか
(複数回答)

・参加したい研修会のテーマは「緩和ケア」が最も多く全回答の21.9%を占めている。
・ついで「がん医療」、「チーム医療」が上位意見となっている。
・前回と比較して上位意見の変化はみられない。



	サンプル数	がん予防・早期発見	がん医療（標準的治療等）	チーム医療	緩和ケア	地域連携（私のカルテ等）	がん患者の講演・交流	がん相談事例等	その他	無回答	項目合計
対象	305	10.3%	16.6%	17.4%	22.3%	10.7%	8.6%	13.5%	0.7%	0.0%	100.0%
がん診療連携拠点病院	305	78	125	131	168	81	65	102	5	0	755
合計	305	78	125	131	168	81	65	102	5	0	755

その他のご意見

- 在宅医療

	サンプル数	がん予防・早期発見	がん医療（標準的治療等）	チーム医療	緩和ケア	地域連携（私のカルテ等）	がん患者の講演・交流	がん相談事例等	その他	無回答	項目合計
対象	277	10.9%	19.0%	19.0%	21.9%	10.7%	6.6%	9.2%	1.0%	1.7%	100.0%
がん診療連携拠点病院	277	66	115	115	133	65	40	56	6	10	606
合計	277	66	115	115	133	65	40	56	6	10	606

その他のご意見

- アピアランスケア、補完代替療法
- 意思決定支援について
- がんリハ
- 臨床宗教師、心理士の関わりなど・・・
- 社会福祉制度と現状
- 化学療法の継続について
- 家族への支援

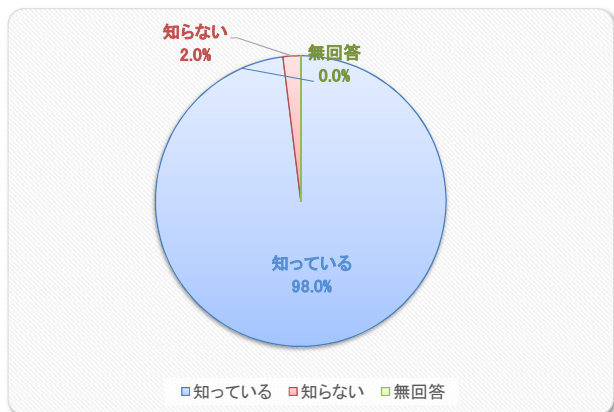
①拠点病院内 医療従事者向

H27年度

Q4.「がんサロン・患者会等」についてお伺いします。

1)がん患者等の交流を目的とした「がんサロン」があることを知っていますか

98.0%が「知っている」、2.0%が「知らない」となっている。



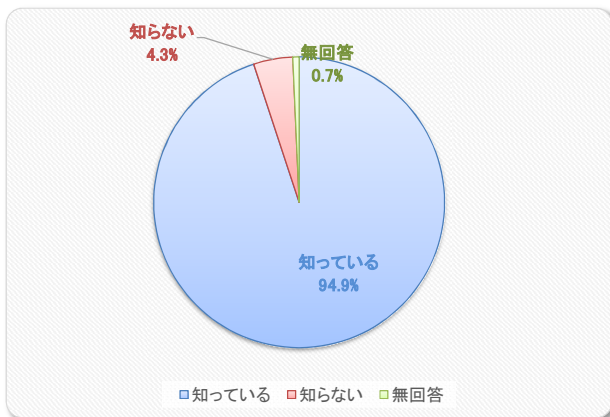
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対 象	305	98.0%	2.0%	0.0%
がん診療連携拠点病院	305	299	6	0
合 計	305	299	6	0

H30年度

Q4.「がんサロン・患者会等」についてお伺いします。

1)がん患者等の交流を目的とした「がんサロン」があることを知っていますか

・がんサロンを「知っている」のは94.9%であり、拠点病院の医療従事者における認知度は高い。
・前回と比較して「知っている」は3.1%減少している。



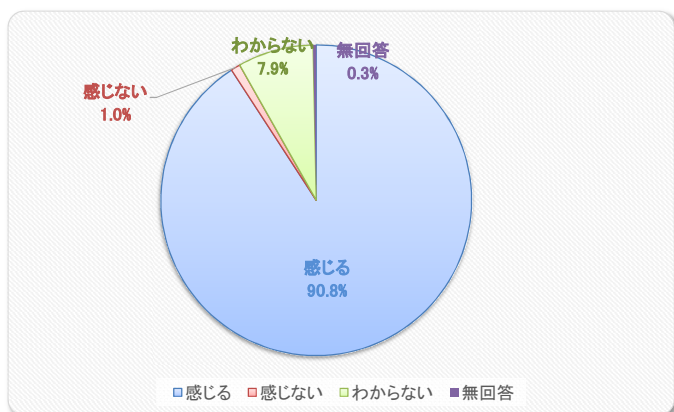
	サンプル数	知っている	知らない	無回答
対 象	277	94.9%	4.3%	0.7%
がん診療連携拠点病院	277	263	12	2
合 計	277	263	12	2

H27年度

Q4.「がんサロン・患者会等」についてお伺いします。

2)がん患者のピアサポート(がん患者同士の支え合い)の必要性を感じますか

90.8%が「感じる」、1.0%が「感じない」、7.9%が「わからない」となっている。



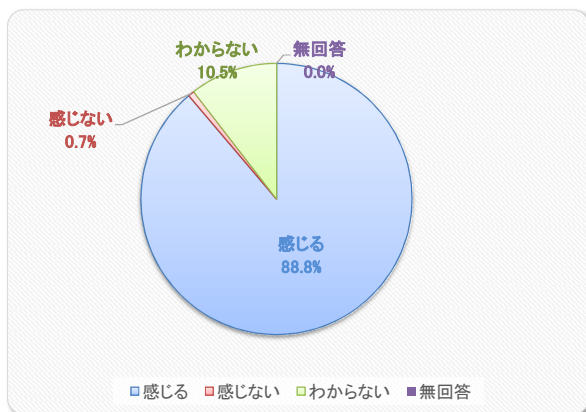
	サンプル数	感じる	感じない	わからない	無回答
対 象	305	90.8%	1.0%	7.9%	0.3%
がん診療連携拠点病院	305	277	3	24	1
合 計	305	277	3	24	1

H30年度

Q4.「がんサロン・患者会等」についてお伺いします。

2)がん患者のピアサポート(がん患者同士の支え合い)の必要性を感じますか

・がんサロンの必要性を「感じる」医療従事者も88.8%と多い。
・前回と比較して必要性を「感じる」割合は変化はみられない。



	サンプル数	感じる	感じない	わからない	無回答
対 象	277	88.8%	0.7%	10.5%	0.0%
がん診療連携拠点病院	277	246	2	29	0
合 計	277	246	2	29	0

Q5 がん相談に関して課題に感じていることはありますか(自由記載より抜粋)

- がん相談事業の認知度がさらに増すとよい。医師や看護師も、積極的に紹介していく必要がある。
- 誰にも言えずに抱えている気持ちがあると思うが、時間がなく介入できていないと感じる。患者・家族ががん相談支援センターに行き相談できるよう、広報や紹介をし続ける必要がある。
- 早い段階で利用できるよう、がん相談に関してもっと広く世間に知らせることが必要。
- 心のケア、精神面での対応に苦渋している。
- 患者のがんに対して受け止め方が違うので対応・声かけが難しい
- 就労支援の介入不足・緩和ケア外来の介入不足
- 相談に充分対応できるか不安
- 人員の不足と周囲の理解が不十分
- 主治医に気がねすることなく、患者や家族ががん相談できているのか懸念することがある。
- 自分自身が、がんに関してのサポートシステムなどについて知識が少ない。
- どの施設でどのような治療ができるか教えてほしい。
- タイミング どこまで介入するか
- 患者と十分に関わるための時間の確保
- 緩和ケア介入のタイミング。在宅を希望されても答えられない事がある。医者との考えのズレ。患者が在宅を希望しても入院を勧められる医師も多い。
- がんを全く受け入れられない患者への対応
- がん患者の就労支援については、生活や治療に支障をきたしてから対策することが多いため、前もって介入できるようにスクリーニングなどが必要。
- 経済的にサポートできる社会保障制度があればと思う。(障害年金の申請ができない方に対して。)
- 治療法や、緩和ケアなどについて患者さんへわかりやすく情報提供してほしい。治療費について明確な情報提供と社会資源の活用など
- がん患者の転院や在宅療養生活の相談が、他職種で密に連携しにくい面もあり、チームでの支援に困難を感じる人が多い。多職種でのカンファ等、実施できれば良いと思う。
- 患者に関わる人が多ければ多い分、医療スタッフの連携を密にしないとこえて悪い結果となる
- 専門外の部分に関する連携
- 地域連携、在宅療養におけるサポート体制
- 医療者ではない視点で患者、家族と関わり、患者家族のがんサバイバーとしてのサポートを強化してほしい。
- がん患者や、その支援者の高齢化がすすみ、がん相談における内容は多岐に渡るため、キーパーソン不在などの問題で相談に苦慮することがある。
- 独居の方、キーパーソンが遠方の患者などの支援体制を考える時
- 訪問診療の不足(24H対応)
- 免疫細胞治療 妊よう性に関すること
- 患者や家族に十分な社会支援に対する情報が提供されていないと思う。
- エビデンスマニュアルが無い事についての相談の答えに困る。(抗がん剤治療の方の白髪染めなど)
- 食生活への具体的な対応。(食べやすい調理法、形態、味付け等の工夫)

Q5 がん相談に関して課題に感じていることはありますか(自由記載より抜粋)

- がん患者と接する機会があるが、十分な時間がとれない。
- 自分自身が色々な知識を持っておかないといけないと感じる。
- 苦手に思う患者、苦しんでいる患者への対応の仕方を教えて欲しい。負の感情が湧いてしまう。
- 患者と家族の関係を把握する事が難しい。患者家族をどうサポートしていけばよいかわからない時がある。
- 患者にふみこんで聞くことができない部分があり介入が難しい。
- 家族への介入がわからないときがある。声をかけづらいときがある。
- 身よりのない方や、協力的でない家族への対応、支援。
- 地域の医療機関が終末期の対応ができるようになること、かかりつけ医が治療について理解し、連携体勢が整うための取り組み
- それぞれ患者に対してのサポートは行っているが、連携が不足していると思う。
- 高齢者世帯でのがんの治療、在宅療養等 介護や在宅サービスの支援だけでなく意思決定の支援への介入の必要性
- がん患者の意思決定が本人の意思ではなく家族にゆだねられていることが多いことにジレンマを感じる
- がん患者の治療選択に関する情報提供のタイミングやサポート事業所との連携。
- 連携が十分にとれていない。自分の働きかけ方を考える必要があると感じる。
- 他職種連携がうまくできない。
- 院外薬局との薬々連携の充実ができていない。
- 若い方に対する支援(経済的なもの、介護など生活面でのもの、患者の子どもなど家族に対してのものなど)
- がんと診断されたら早期から介入できるようにして欲しい。
- 他の医療スタッフや周りの人に相談しにくいセカンドオピニオン、経済的なこと、社会や家族との関わりなどで患者の力になってほしい。
- もっと身近に相談できるよう啓蒙活動を行い患者が利用しやすいようにする
- 急性期病院から、地域の病院へ緩和目的で転院する際の社会資源も含めたサポート
- がんになるまで社会資源や様々な制度のことを知らないことが多い。患者は情報を受け身でまっている。
- 社会的支援の問題、治療費支援など
- 心理的・精神的サポートが重要
- 遺族ケア
- 在宅での療養、看取りがまだまだ少ないこと。本人と家族の思いの違いがあること。
- がんピアカウンセリングの認知度向上
- がん相談員が関わっていないケースでサポートを必要としている方の見極めが難しい。
- 相談内容について検討する機会が少ない。
- 県内で最適な治療が受けられる施設を施設の垣根を越えて紹介できているか
- がん相談支援センターは求められている業務内容が多岐に渡るため、スタッフの努力のみで成り立っている。国や県からのシステムチックなサポートが必要だと思います。
- Q1.「アンケート回答者」についてお伺いします。
- 数百円の生命保険の先進医療特約で数百万単位の陽子線治療や重粒子線治療の治療費が受けられる可能性があることを患者や家族に知らせてほしい。そのためのセカンドオピニオンが大事と考える。